

第105回日本精神神経学会総会

シンポジウム

心理技術職に関するアンケート調査報告

日本精神神経学会心理技術職の国家資格化に関する委員会

1. はじめに

本学会は精神科チーム医療の立場から、また心理学に最も近接する精神医学の専門学会の立場から、心理技術職の国家資格化に賛同してきた。しかし平成17年に公表された「臨床心理士及び医療心理師法案要綱骨子案」(2資格1法案)には各精神科関連団体とともに懸念を表明した。そこで本学会は平成19年より「心理技術職の国家資格化に関する委員会」を立ち上げ、検討を重ねてきた。そこでは様々な議論があったが、その中でこれまで心理技術職の国家資格化についての具体的な意見が把握されにくかった精神医学講座担当者にアンケートをすることは、今後の活動に有意義であると意見が一致し、今回このアンケート調査を実施することになった。

2. 対象及び方法

全国の大学で精神医学講座を担当している80名に対して、匿名での心理技術職に関するアンケート(別紙)を2009年4月に1ヶ月の期限で行った。結果については、第105回学術総会シンポジウムで発表する旨、予め伝えた。結果60名より回答があり、回答率75%と高率であった。

3. アンケート結果 (N=60)

質問への回答及び意見については次のようになった。

質問1. 心理技術職は貴講座の日常の臨床、教育や研究にとって必要とお考えです

か?

1) はい	58名	97%
2) いいえ	0	0%
3) どちらとも言えない	1	2%
4) その他	0	0%

(無回答あり)

質問2. 心理技術職は特にどの領域で必要とお考えですか?(複数回答可)

1) 臨床・検査	59名	98%
2) 教育・研修	43	72%
3) 研究	40	67%
4) その他	0	0%

質問3. 現在、貴講座では心理技術職は充足しているとお考えですか?

1) 充足している	18名	30%
2) 不足している	39	65%
3) その他	1	2%

(無回答あり)

質問4. 次に心理技術職の国家資格化は必要とお考えですか?

1) 必要である	54名	90%
2) 必要でない	2	3%
(意見) 今の形では「必要でない」どころか、「してはならない」		
3) わからない	3	5%
4) その他	1	2%

質問5. 質問4で「必要である」と答えた理由は何ですか？（複数回答 可）

1) チーム医療の充実のため	39名	65%
2) 心理技術職の質の向上・質の確保	47	78%
3) 守秘義務の徹底	10	17%
4) その他	8	13%

質問6. 質問4で「必要でない」と答えたその理由は何ですか？（複数回答 可）

1) 現状では特に不便を感じていない	1名	2%
2) 心理学関係の学会や団体等との関係性を重視	0	0%
3) その他	1	2%

4. ま と め

精神医学講座担当者に心理技術職に関するアンケート調査を行った結果をまとめると以下のようになる。

(1)心理技術職の必要性に異論はなく、必要度と

しては日常の臨床、教育、研究の順である。
(2)現実には心理技術職は担当の講座では充足していない。

(3)国家資格化については90%が必要と回答している。その理由は、第1に「心理技術職の質の向上と質の確保」、次に「チーム医療の充実」の順である。

(4)その他心理技術職の国家資格化に対する意見（自由記入）の集約

心理技術職に国家資格がなく、身分不安定で、しかも診療報酬上の評価も十分でないままでは、正規採用は困難となり、その結果必要数を充足できていない。従って国家資格は必要であるが、そのためにはこれまで以上に臨床に役立つ心理技術職の育成のための教育システムの構築が欠かせない。現状は満足できるものとなっていない。

以上の調査結果をもとに、当委員会では更に議論を深めていく予定である。

（文責：松田ひろし）